

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500016		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム 優海		
所在地	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに色を変える海や山の景色、ゆっくりとのどかに一日が過ぎてゆく離島の町、御所浦。“優海”がその景色の一部となってから10年目を迎えた。“今日も穏やかに、にこやかに”この基本理念の実現に向け、地元の職員だからこそ出来る支援を考え、模索しながら全職員が日々のケアに努めている。穏やかな生活の中にも活気や笑顔が溢れ、一つ屋根の下、お互いを思いやり、いたわり合い、関わり合いながら、それぞれの利用者様が生活を送られている。“優海が第二の我が家”利用者様にとってそんな存在でありたい、その思いで勤務する職員にも笑顔と活気が溢れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見慣れた海を眺めながら日常を過ごせるホームでは、昔取った杵柄でつわの収穫や魚さばきに取り組んだり、鮮魚の移動販売の案内放送を職員に知らせる入居者に応えながら、地元ならではの食への関わりや、毎月の『食の楽しみイベント』など工夫された食事支援が進められている。離島であることから特に日々の健康管理を徹底し、在宅医療への志の高い協力医連携しながら入居者の日常を支えている。また、立地的に不便さを逆手に、ゆとりのあるサービスは、職員のチームワークとモチベーションの高さが表れている。毎月発行される手作りの広報誌『ゆかい便り』は、決して大判ではないが、掲載された写真を紹介した方言のコメントや、担当職員からの一言コーナーなど、温もりのあるホームの日常が伝わってくる。地域の中で当たり前のように生活する入居者と、職員とがゆとりとゆかいな時間を共に楽しむホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「今日も穏やかに、にこやかに」の基本理念と共に、職員全員で決めた今年度目標「伝えよう、持ち続けようありがとう感謝の気持ち」を毎朝の朝礼で唱和することで、各職員が再確認し、実践に繋げている。</p>	<p>ゆとりあるゆかいな生活のための充実した設備と空間をホーム名に込め、基本理念の他、島内で働けることへの感謝、地域や入居者への感謝の気持ちを目標として掲げている。島であるがうえのデメリットも、気持ちの持ちよう工夫次第であるとして前向きな職員は、意思疎通も良く、和気あいあいとした日常生活に理念を的確に捉えていることが表出している。また、地域住民の力を借りながらの畑作り等地域とともにあるホームが形成されている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>小中学校の運動会や、地域の祭りには出来る限りでかけ、地域の方々と交流する機会を提供している。又、地区の伝統行事においては、ホームに来訪していただいている。</p>	<p>入居者及び職員全てが島民であり、地域の中にもとからあるようなホームとして確立している。防災無線等により地域の情報を得ながら、様々な地域の行事や祭等に出かけている。ホームの現状を地域もよく理解されていることも、夜間の外出が困難状況に、子どもたちのほうから訪問(“よいとんご”という祭)、草とりやお茶にと頻繁に訪問される老人会、ホームの行事(夏まつりや運動会等)にはボランティアとしての訪問や近隣住民にも呼びかけ開催する等、多様な交流とともに、昔ながらの地域との関係が継続されている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中高生のボランティアや職場体験学習、老人会のボランティアの受け入れを通して「認知症」への理解を求めている。定期的な老人会の来訪の際は、「よう、来てくれたな」と利用者様の方から言葉をかけられる姿も見られている。</p>		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区振興会の会長、老人会、包括センターの職員に参加、協力を頂いている。日頃のホームでの活動状況を報告すると同時に、実際の利用者様や職員の様子を見て頂くことで、貴重な意見や情報を頂き、それらを職員間で共有、反映させることでサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の意義を明確に捉え、テーマを持って開催している。ホームの現状報告からの質疑応答や、写真により日常生活を開示する一方で、天草市全域の介護負担事業について説明したり、地区振興会からの要望等有意義な会議である。また、委員は、いつも訪問されることで職員への気づき等を発信されており、改善に向け職員で検討し、サービス向上に反映させている。防災や法人決算報告等透明性のある運営体制でもある。	地区振興会長や老人会、地域包括支援センターや知見者等メンバー構成は充実しているが、家族の参加は難しいようである。充実した会議であり、家族へも情報を発信いただきたい。ホーム便り等の活用も一案である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加して頂き、又、入居申込みなどの協力、情報交換も定期的に行っている。市からは集団指導やメールにより情報を頂いており、困難事例や制度上の不明な点は、市の担当者に相談、指示を仰いでいる。	運営推進会議の他、集団指導への参加、社協や地域包括支援センターからの入居相談等諸関係機関との良好な関係を築いている。代表は、介護ロボットの申請や助成金等新たな取り組みをリサーチし担当部署に出向きながら、意見交換を行ったり、成年後見制度等お互いが協力しながら入居者を支えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束はしない、という共通認識を持って支援をしている。利用者様の安全確保と、防犯の面から夜間のみ玄関を施錠している。	身体拘束廃止宣言をしたホームでは、全職員が拘束および虐待をしないと認識している。また、外部研修へ参加し、ホームでも復講を行い、意識を強化させており、具体的な行為や弊害を正しく認識している。職員の言葉使い「ちょっと待ってください」には必ずその後の対応に気を付けるなど注意喚起されている。代表も、昨今の報道を受け、注意喚起されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待について「あってはならない」と認識しており、内部研修において再認識する機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、成年後見制度を利用されている方がおられる。天草市社会福祉協議会主催の成年後見制度についての研修会に参加し、重要性をあらためて認識した。介護の専門職としてさらに知識を深め、今後の支援に活かしたい。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭、文章で契約内容の説明を行っている。ご本人や、家族の不安、疑問にも耳を傾け理解、納得を頂いた上で署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けているが、実際に活用された方はいない。家族の面会時や電話の際、貴重な意見や要望を頂くことも多く、その都度業務日誌や個人の経過記録に記入をして、全職員で情報の共有を図っている。	遠方の家族が多く、毎月便りを発行しホームの様子とともに、担当者により本人の様子を家族に伝えている。家族から、ホームから送られる写真等を見て、電話をされており、感謝の言葉は職員のモチベーションにつながっている。また電話や訪問時要望や思いを聞き取りしたり、地域からの意見等記録に残し全員で精査しサービスに反映させている。外出時ホームに帰ろうとされる姿に「寂しい思いも無いのですね」と安心される家族等入居者と職員との家族的な関係性も聞き取りにより確認された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや、2ヶ月に1度開催される職員の勉強会兼食事会に代表者も参加をして、意見の交換を行っている。	毎月代表参加によりミーティング、2か月毎に開催する勉強会等職員の意見や提案をする機会を作っている。委員会による各提案事項の話し合いや代表も職員に提案されている。運営推進会議委員の意見により初心に戻り、ケアを意識することを申し合わせ、見落とすな、見逃すな、ダメなことはダメと言える職員間の関係性を気づきとしている。代表から一任された管理者は、職員との風通しの良い関係性を気づき、日々のケアの中で提案等を聞き取りし、必要があれば代表による個人面談を行うこととしている。また、職員個々が目標を掲げ、達成に向け自己研鑽している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の健康状態や、家族構成を把握しつつ、働きやすい勤務態勢がとれるよう勤務シフトを作成している。又、代表者は、ホームを訪れた際は、労いの言葉をかけるなど、職員のやりがいに繋がっている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が研修会に参加できるよう情報の提供は行っているが、外部研修の回数は多くない。行事の立案計画、各委員会の役割など、職員に任せることで、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、熊本県地域密着型サービス連絡会の天草ブロック会世話役を務めており、研修会や交流会の立案、実施まで行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族や相談者が来訪された際に、不安なことや要望に耳を傾け、出来る限り不安が軽減した状況で入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来られた御家族には、実際の場を見て頂きながら説明をし、不安の軽減に繋がるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族からの要望やご意見を踏まえ、心身の状態も把握した上で、他の事業所の利用も含めた支援の方法、内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物、調理の下ごしらえ、掃除など職員と共同で作業する環境作りが出来ており、作業の中で利用者様から助言やご指導いただくことも多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様個々の誕生会や、ホームの行事には参加のご案内をさせていただき、御家族の面会の際は、自室などでゆっくり過ごして頂く事で、家族との関係が保たれるよう支援している。 遠方におられる御家族には、電話や広報誌などで近況を報告している。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域柄、職員も利用者様の知人と会う機会も多く、その際近況を伝え、可能であれば面会に来ていただくよう申し添えている。地域の行事にも、出来る限りでかけていただき、馴染みの方と触れ合う機会を提供している。	在宅時から行っていた神社参拝、地域行事へ参加すると多くの知人や近隣住民から声をかけられたり、誕生日には大勢の親族の訪問を受ける入居者、地域住民や老人会からも頻りにホームに訪問されており、馴染みの人・場所との関係を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いやレクリエーション活動など、残された能力やこれまでの経験が生かされ、お互い支え合い、いたわり合いながらの生活が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域柄、退居された方の御家族にお会いすることも多く、近況を伺うなどしている。亡くなられた入居者様の御家族が、立ち寄って下さることもあり、これまでの関係性を大切にしよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人や御家族の希望や意向を聞き取りしている。又、入居後はご本人の言葉を傾聴し、その時必要な支援の把握に努めている。困難な場合は、職員間で情報を共有しながら、多方面からアプローチを行いご本人の意向に添えるよう支援している。	入居時のアセスメントの中で本人・家族から聞き取りや、日々の会話の中からの推察や声かけの反応の観察、職員からしたい事等を聞き取りし、ケアに反映させている。また、発語困難な状況に、表情・うなづき等での把握や、言葉の裏にある真意などを探り、職員間で検討し、本人の思いに応えようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族の言葉の中から、生活歴や馴染みの暮らし方等について情報を収集している。又、日々の観察により、ご本人の習慣とされている物に気付く場合もあるため、職員間で情報を共有しながら、支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の活動時の、表情や言葉などの状況を記録に残し、職員間で情報の共有を図りつつ、継続して支援が出来るよう努めている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の要望や、心身の変化によって検討が必要な場合は、担当職員、ご本人や御家族、計画作成担当者を含め話し合いの場を設け、介護計画作成に活かしている。	本人・家族の意向等を把握し、毎月の話し合いと、半年毎にホーム長(兼看護師)・管理者・ケアマネジャー・担当スタッフ等で話し合い、担当職員によるモニタリングにより介護更新に合わせて見直し、新たなプランを作成している。家族の意向が見えにくいとして、家族の意向はどうか等経過記録に残し、プラン見直しに反映させている。大切な人・場所との関係継続に向けた具体的なプラン等が作成され、毎日の経過記録に短期目標を入れ、日々のケアに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に沿って、ご本人の言葉や、表情を記録に残すと共に、気づきや要望についても特記事項の欄に記入することで職員間の情報の共有を図り、必要時には見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や、意向に応じて個別に買い物や散歩に出掛けていただいている。身体機能の低下したご利用者様には、母体の事業所が取り扱っている福祉用具で迅速な対応が出来るようしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市立図書館から月に一度、移動図書館として訪問していただき、入居者様に好みの本を選んでいただいている。又、地区の祭りや小中学校の運動会にも出掛け、「地域の一員として」の暮らしが継続出来るように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期的往診と、個々の体調の変化に伴った、個別の受診で入居者様の健康管理が出来ている。又、病状により、島外の専門医療機関への受診が必要な場合、看護師または職員が付き添い、受診の結果を家族に報告している。	協力医により月に1度の往診や体調変化時の受診を支援している。皮膚科などは島内に医療機関がなく、船を使用した受診に出かけているが、入居者への負担は否めないようである。離島のため特に日常の健康管理を徹底し、健康委員から会議の中で観察報告が行われている。受診結果など入居者の状況を家族へ伝えながら、現状を双方で共有している。消防署員による救急蘇生法や実施訓練も受講している。	この1月の積雪時に体調を崩された入居者に状況からすぐの往診はできなかったが、電話での支持やその後の点滴治療などにより回復されている。今後もホームへの理解ある協力医療機関との連携や職員の健康管理により入居者の日常を支えていきたい。

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面での気づきや、不安なことはホームの看護師や協力医療機関の看護師に相談をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となったときは、家族に連絡すると同時に、介護サマリーを作成し、入院病棟へ情報の提供を行っている。又、入院中も定期的に面会に行き、ご本人の状態を確認し、担当看護師から情報を提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの看取り指針について説明を行っている。又、実際に重度化された場合は、ご本人や御家族の希望や意思を確認し、それらを踏まえた上で、医療機関や他の関係機関と連携を図っている。	入居時に重度化や終末期への対応について指針をもとに説明を行い、意思確認書进行、体調を崩された場合などに再度意向を確認している。在宅医療への志への高い医師の存在は心強く、変動する家族の思いを受け止めながら支援にあたっている。家族は積極的な医療な望まれていないが、日頃から何かあれば直ぐに連絡を行い、希望される普通の生活を家庭的な環境のもと支援している。	現在、重度化や終末期支援に関する研修会は行っていないが、今後は職員として何が出来るかやメンタル面にも配慮した研修会の開催も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル、緊急連絡網を作成し備えている。又、天草広域連合御所浦分署の協力指導の下、定期的に救急蘇生法の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施している火災避難訓練には、近隣の住人からも参加協力を頂いている。風水害については、ビデオを上映しながら勉強会を開催している。	年2回の火災避難訓練は近隣者や消防分署の参加協力を得て実施されている。今年度は9月と3月末には、歩行や車椅子利用者も実際、外へ避難する訓練を予定している。また、業務日誌の中で安全チェック(戸締りやガス)の他、小まめに周辺の可燃物やコンセントの埃も確認している。台風接近時は早めの情報収集に努め、停電への対応や非常食などの準備をしている。近隣の独居者から台風時はホームで待機しても良いかなど尋ねられることもあり、可能な限り地域への協力を行っている。	ホームは立地の面から土砂崩れなど自然災害への対応が不可欠と思われる。今後もあらゆる場合を想定し、入居者の安全確保に努めていかれることを期待したい。

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所前から職員と顔なじみの方も多く、下のお名前と呼ばせて頂く事もある。日常会話は、方言を交えつつもご本人の人格を損ねないような言葉かけを心がけている。又、各居室やトイレ、浴室への入室の際はノック、声かけを行い了解を得ている。	入居者の呼称は、職員とも顔なじみでお互い下の名前で呼び合う関係であり、状況に応じて対応している。また、日常の会話は方言を交えながらも、尊厳に配慮したやり取りを心がけている。入浴支援で初めは同性介助を希望されていた方も、現在は男性職員の力に安心されスムーズな支援になっている。ホームは職員の守秘義務を徹底し、個人情報については、家族の了解を得て使用している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝、起床時間、入浴等の日常の活動に於いても、その都度ご本人に意思確認を行い、自己決定が出来るよう支援している。言葉での自己決定が困難な場合は、表情や仕草からご本人の思いを汲み取ることが出来るよう心がけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュール表は作成しているが、その日の入居者様の体調や意向を考慮しながら、柔軟に対応するように心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に着用する衣服については、入居者様に選択していただいているが、必要時には、職員が助言を行う。又、新しい衣類などの購入希望が聞かれる利用者様には、町外からの移動販売などに職員と出かけていただき、購入をしていただいている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者様には、台所に入っていたいただき、野菜を刻んだ、味付けなどを手伝っていただいている。ホールにいなながらも手伝っていただけの作業、ゆで卵の殻剥きや、テーブル拭きなど個々の力量に合わせて支援しており、終了後には、感謝の気持ちを伝えている。	毎月、食のイベントを企画(4・5月は花見をしながらの弁当・夏のソーメン流し・冬場の鍋など)したり、行事食や好みを聞き入れ提供する誕生会など楽しい食事支援に努めている。食材は地元商店や移動販売による鮮魚をはじめ、菜園や近隣者からの差し入れ野菜も活用している。入居者は魚をさばいたりピーマンの肉詰め、玉ねぎやゆで卵の皮むきなどできる事に取り組んでおり、手伝っていただいた内容は食事中に紹介することで励みにも繋がっている。職員も同じ物を一緒に摂っており、検食の感想は現在口頭で伝えている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は、健康管理表や申し送りにて全職員が把握できるようにしている。水分量や食事摂取量が少ないときは、時間を空けて勧めたり、好みの物を提供している。又、個々の状況を観察し、必要時には自助食器を使用していただくなどの検討を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状態、習慣にに合わせて、口腔ケアの声かけや、誘導を行っている。ご自分で出来ない利用者様については、職員が状態に合わせ手伝っており、同時に口腔内に異常がないか確認、観察を行っている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの排泄パターンを全職員が把握し、日中は出来るだけトイレで排泄が出来るよう声かけや誘導を行っている。又、失敗があった場合もタイミングを見ながら、ご本人の自尊心を傷つけないよう支援している	日中はできる限り布下着で過ごせるように支援しており、身体状況から紙パンツ使用の方もおられるが、殆どが布下着や尿とりを併用されている。また、夜間は3名の方がポータブルトイレを使用されている。誘導も時間にとらわれず本人の様子を見て対応している。開設時は2ヶ所であったトイレが、現在は脱衣所に1ヶ所増設し混乱を防いでいる。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションや体操、散歩など日中は出来るだけ体を動かしていただいたり、おやつに牛乳やヨーグルトなど、乳製品も多く取り入れ自然に排便が出来るよう支援している。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態、意思を確認した上で入浴をしていただいている。又。拒否があり何日も入浴できていない入居者様に関しては、気持ちよく入浴していただけるよう雰囲気作りをしながら声かけを行っている。	入居者の希望や健康状態を確認し、週4～5回の入浴を支援している。拒否の方へは、雰囲気作りや声のかけ方を全職員で共有しているが、間隔が長い場合は、タイミングを図り寝る前に様子を見て着替えを実施するなど清潔保持に努めている。苜蒲やゆず湯など他、入浴剤も春先は桜の香りのもなど工夫している。また、夏場は風呂上がりに冷たい甘味ものを用意するなど、季節に応じた水分補給も行われている。	入居者の中には「温泉に行きたい！」の要望も出されており、安全面に配慮した人員配置などにより実現が期待される。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は和室やソファ等、個々の思い思いの場所で過ごしていただいている。前夜の睡眠状況やその時の状態によっては、午後からベッド臥床を促しており、夜間の睡眠時間もそれぞれのタイミングで休んでいただき、寝具や照明の調整等により、安眠出来るよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様お一人お一人の、薬ケースを用意しており、薬局から配布される薬の説明書を添付している。薬の変更時にも記録に残し全職員が確認できるようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の仕事がされていた利用者様には台所を手伝っていただいたり、漁師がされていた利用者様には魚釣りゲームを楽しんでいただくなど、これまでの習慣や楽しみごとが継続出来るよう支援している。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など、その時の利用者様の希望により移動手段や目的地を決定し、出掛けていただいている。近所のお地藏様や、地元の神社への参拝などを希望され利用者様も多く、帰ホーム時には笑顔が見られている。	入居者のその時の希望に応じ、ドライブや散歩などの外出を支援している。近所のお地藏さん(しあわせ地藏)参りや、初詣も2ヶ所で希望される神社へ出かけている。また、マラソン大会応援や鬼火焼き見学もフード付き上着やひざ掛けなど寒さ対策を施し、地域の人々とも交流できるイベントに出かけている。この春は入居者の生まれ育った島々を一望できる峠に登り、桜の花見も予定されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には御家族やご本人と相談の上、ホームで管理をしている。手元にて現金を管理されている利用者様に関しては、外出時の嗜好品などの購入の際、職員の見守りの中で支払いをしていただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族やら電話があった際は、直接利用者様本人に用事がない場合でも、近況を伝えつつ御本人と話しをしていただく。会話が困難な時は職員が間に入り、双方の思いが伝わるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室は、朝日が当たり、天気の良い日は日向を求めて利用者様が集う場所となっている。リビングの窓は大きく設計されており、近所の方の行き交う様子、梅や桜の開花等も見て取れ、会話の種となっている。廊下やトイレなどにも四季折々の草花を飾り、季節を感じていただいている。	高台に建つホームは、入居者にとって見慣れた海を眺めながら過ごせる環境が一つの居心地の良さに繋がっている。共用空間の至る所に敷地内に咲いたものや、家族や近隣者から届けられた季節の花が生けられている。採光の良い和室は入居者の集いの場となっており、大きな窓が付けられたリビングは花の開花や人の往来が眺められ、入居者の会話を弾ませている。また、日中居室で過ごす事が心配であったり、寂しく思われる方には、和室にベッドを置き、皆の声を聞きながら休んでもらえるように配慮している。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室のソファは、他の利用者様の息づかいを感じながらも、ゆっくりと自分の時間を過ごすことの出来る場所である。又、玄関先のベンチを利用して気分転換をしたり、気のあった利用者様同士が会話に花を咲かせてたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族や知人の協力で、御本人の馴染みの物や、大切な物を持ち込んでいただきその人らしく、落ち着ける空間となっている。お彼岸や、お正月には亡くなられたご主人や、お子さんの写真に供物される姿がよく見られている。	入居時の準備物については、新しく購入する必要はなく家で使っていた物を持ち込んで欲しいことを説明している。家族から他の方がどういうものを持ってこられているか？の質問に、家具の他大切な家族の写真などもあることを伝えている。入居後も家族や知人に次回の面会で持ち込みの要望を具体的に伝えられる方もあり、遺影への供物や花、日用品などが届けられている。入居者は海やご近所さんの風景を眺めながら、ベッドや畳敷きの部屋で使い慣れた品や思い出のある腕時計などを身に付け安心した時間を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの共有空間は大きな文字で表示し、分かりやすくすることで混乱することなく目的の場所までの移動ができるようにしている。必要に応じた手すりの設置や、福祉用具の活用で安全、安心な自立した生活が出来るよう工夫をしている。		